

No.2 >>> Contents

赤の下線をクリックすると
そのページに飛びます

●業界キーマンは語る 純国産絹織物できものの振興を！ 社団法人 日本生糸問屋協会 会長 樋口泰三	1
●提携支援センターから 承認した提携グループ6件の概要について	2
提携支援センター活動日誌No.2	3
純国産マーク使用許諾について（平成20年度第1次分）	4
広報活動用パンフの紹介	6
●今月の話題 新たに開発された真空式小型煮繭機の概要 (財)大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 清水重人	8
●国内情報 百貨店における絹呉服の動向～時代のニーズと変化への対応～ (株)高島屋 MD本部 呉服ディヴィジョン長 池田喜政	13
●海外情報 最近のブラジル蚕糸情勢 ブラタク製糸会社 元取締役工場長、経営審議会員 丸山 栄	15
●トピックス 国内産地情報、海外情報（中国）	21
●シルク豆辞典 シルクの豆辞典（17） 桑畑の出現 -桑中の喜び- 信州大学名誉教授 嶋崎昭典	24
●イベント情報	27
●登録コーディネーター一覧	29
●蚕糸関係博物館一覧	31
●統計資料	32

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)



純国産絹織物できものの振興を！

社団法人 日本生糸問屋協会

会長 樋口 泰三

国内の着物業界は、一昨年 of 過量販売に対する批判から大手きもの小売業者（愛染蔵、タケウチ）の倒産後、大きな悪影響を及ぼした。この後、これらの在庫品の整理が進み、本年度になってようやく、きものが前年度同程度売れ始めてきた状況となってきた。しかしながら、輸入絹織物、輸入絹糸が増加、大手小売業者の人員整理等悪材料も見えている。また、海外、特に中国、ブラジルの状況は、生糸価格の値上げを要求、日本の生糸問屋各社は、生糸価格の上昇についていけない状況となってきた。

このような状況のもと、日本の蚕糸業の生き残りをかけた「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」の実施により、「純国産絹織物」を前面に出した商品作りが求められている。海外品や「混練、混織」を続けていては、生きていけないと考えている。

このように、純国産絹織物が、今後普及していくためには、「国産繭、国産生糸」が生産され、機屋さんに消費されることが重要である。機屋さんの段階では、輸入生糸で製造した絹織物と純国産絹織物との競争となる。純国産絹織物の宣伝をより積極的に行っていく必要があると考える。

洋装品は、「メイド・イン・ジャパン」より「メイド・イン・イタリー（フランス）」が好まれると思うが、きものは、やはり「メイド・イン・ジャパン」でしょう。

純国産絹織物で生産履歴を明らかとした商品は、「高島屋・誰が袖好み」が顕著な例である

と思う。これにより、消費者にしっかりと情報公開し、商品を提供することの大切さが浮き彫りになったと考える。

本年2月、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業がスタートし、その後、「純国産絹マーク」が制定された。機屋さんの協力を得て、純国産絹マークの重要性の認識と普及を積極的に行っていくつもりである。

従来から、日本生糸問屋協会としてもきものイベント・普及等に対する支援を行ってきた。支援している大きなイベントとしては、「滋賀県長浜市の大園遊会」がある。この会を通じて、きもの着用の機会の拡大を目指してきているが、同時に、長浜市の商店街の活性化にもつながっている。今では、長浜市で最も大きな行事の一つとなっている。

以上のように、着物業界全体としては、未だ、厳しい環境にあると考えるが、「純国産絹織物」の普及宣伝が始まるとともに、「絹はこれからも愛用される天然繊維」であることに変わりはないと考える。

多くの提携グループが立ち上がり、繭から絹織物までの一貫とした「純国産絹織物」が生産され、日本の伝統衣装のきものが、より多くの国民に親しまれることが重要である。

このため、日本生糸問屋協会としても、積極的に対応するとともに、関係機関と協力して、「純国産絹織物できものの振興」をしていく所存である。

承認した提携グループ6件の概要について

蚕糸・絹業提携支援センター

平成20年3月31日に承認した提携グループ4件と平成20年6月25日に承認した提携グループ2件の概要は、以下のとおりです。

提携グループ名及び構成者	製造する絹製品	蚕品種・特徴等	対象繭生産地・生産量
グループ167 養蚕農家（4戸）、宮坂製糸、織道楽塩野屋、両双、ウェイズ	絹織物 副産物（蚕沙、幼虫、蛹等）の有効利用	蚕品種：緑繭1号 （色繭（クロロフィル）の特徴を利用）	京都府（250 kg） 春 蚕 80 kg 初秋蚕 70 kg 晩秋蚕 100 kg
白繭細1号プロジェクト開発チーム 高原社、養蚕農家（11戸）、碓氷製糸、宮坂製糸、芋田機業場、五十嵐商事、龍工房、矢代仁、木村和哉、三越、マルシバ	絹織物（御召）	蚕品種：白繭細1号 （細織度繭を利用し、高級絹織物製造）	長野県（2,150 kg） 春 蚕 850 kg 晩秋蚕 1,300 kg
“絹を未来に”プラチナボーイ研究会 養蚕農家（8戸）、碓氷製糸、芋田機業場、五十嵐商事、銀座もとじ、マルシバ	シルクデニム	雄蚕品種：プラチナボーイ （男用きものに次ぐ製品開発）	千葉県（2,700 kg） 春 蚕 1,200 kg 晩秋蚕 1,500 kg
日本蚕糸絹業開発協同組合同産シルク研究会 養蚕農家（120戸）、碓氷製糸、丸進機業、カプト、山直織物、坪金工業、南久ちりめん、ワタマサ、江島屋染工場、絹小沢	絹織物（裏地等）	蚕品種：群馬オリジナル品種（ぐんま200、新小石丸、世紀二一、上州絹星、ぐんま黄金）の活用	群馬県（24,680 kg） 春 蚕 13,880 kg 晩秋蚕 10,800 kg
蚕太開発グループ 養蚕農家（8戸）、碓氷製糸、マズミ、門倉メリヤス、蜂須メリヤス、贄田シルク、JA北群馬渋川・JA前橋	シルクニット （セーター、ジャケット、靴下等）	蚕品種：蚕太 （太織度繭で洋装用ニット製品の作出）	群馬県（900 kg） 春 蚕 900 kg
富岡シルクブランド協議会 養蚕農家（21戸）、碓氷製糸、宮坂製糸、富岡市、富岡製糸場、JA甘楽富岡、個人作家（7人）、甘楽富岡蚕桑研究会、富岡シルクタンパク研究会、繭家	タオル、パフ、スカーフ、タペストリー等	蚕品種：ぐんま200、錦秋×鐘和 （21年産以降当該地域の全蚕期繭全量を協議会で使用予定）	群馬県（4,950 kg） 春 蚕 2,425 kg 晩秋蚕 2,525 kg

蚕糸・絹業提携支援センター活動日誌No.2 (H20.6.16～H20.8.29)

年月日	活 動 内 容 等
20.6.18～ 20.6.19	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会（新潟県小千谷市）
20.6.25	平成20年度提携システム確立事業を承認（2件）
20.7.4	（社）日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
20.7.7	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会（群馬県前橋市）
20.7.11	平成20年度第1回コーディネーター活動推進会議（東京都有楽町 糖業会館）
20.7.18	（社）日本絹業協会による純国産絹マークの使用許諾（11件）
20.7.22	蚕糸行政連絡協議会総会にて蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の説明（東京都有楽町 蚕糸会館）
20.7.24～ 20.7.25	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る機械・機材の整備事業の打合せ 及び第61回製糸夏期大学（長野県岡谷市）
20.8.5～ 20.8.6	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会（京都府京都市）
20.8.11	平成20年度第2回蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーターの登録（30名）
20.8.21	栃木県養蚕産地育成協議会及び財団法人大日本蚕糸会の共催による栃木県晩秋蚕期優良繭生産研修会（栃木県宇都宮市 栃木県青年会館）
20.8.28	平成20年度第2回コーディネーター活動推進会議（東京都有楽町 蚕糸会館）



「活発な討議が行われた第1回コーディネーター会議」

純国産絹マーク使用許諾について（平成20年度第1次分）

社団法人日本絹業協会

今回、純国産絹マーク使用許諾申請書が14社から提出され、純国産絹マーク審査委員会に図られ、了承を得た11社に対し、7月18日（金）純国産絹マーク使用許諾契約を締結する旨を通知しました。

純国産絹マーク使用許諾者は次の11社です。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社千總 代表者名 西村 總左衛門 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者: 俵 武司) Tel 075-211-2531 表示者登録番号 001	後染織物 (訪問着・付下・色無地)	1,200 反	繭生産 岩手県一関市、平泉町養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 加賀グンゼ (株) 染 色 自社
株式会社織匠田歌 代表者名 曾根 武勇 京都市上京区笹屋町通智恵光院西 入笹屋町壱丁目520 (担当者: 曾根 武勇) Tel 075-451-7788 表示者登録番号 002	先染反物 先染帯	120 反 60 本	繭生産 J A 上伊那管内養蚕農家 製 糸 (株) 宮坂製糸所 染 色 足利染色 企 画 (株) 深田商店 製 織 自社
有限会社ミラノリブ 代表者名 笹口 晴美 群馬県桐生市本町2-8-26 (担当者: 千明 敏彦) Tel 0277-20-8801 表示者登録番号 003	婦人服 (トップス) (ボトム) ソックス ショール、ストール スカーフ ネクタイ	800 枚 500 枚 100 足 500 枚 800 枚 600 本	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協又は自社 撚 糸 東北撚糸 (株) 染 色 今井染色 (有) 又は自社 製 編 自社
株式会社丸上 代表者名 上達 征次 東京都中央区日本橋久松町四番十四号 (担当者: 斉藤 清二) Tel 03-3662-4416 表示者登録番号 004	後染反物 (色無地)	200 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房又は (株) 菱健
株式会社坂本屋 代表者名 飯塚 久二 茨城県土浦市荒川沖西 2-12-3 (担当者: 飯塚久二) Tel 0298-42-7572 表示者登録番号 005	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房又は (株) 菱健 制作企画 (株) 丸上 意 匠 自社
有限会社平原 代表者名 平原 隆志 福島県白河市昭和町 184-6 (担当者: 平原 隆志) Tel 0248-24-0804 表示者登録番号 006	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物 (株) 染 色 小林染工房又は (株) 菱健 制作企画 (株) 丸上 意 匠 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社信盛堂 代表者名 神部 健一 東京都清瀬市元町 1-8-35 (担当者：神部 健一) Tel 042-493-3364 表示者登録番号 007	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画(株)丸上 意匠 自社
株式会社きものアイ 代表者名 吉澤 政敏 新潟県十日町市 686 番地 (担当者：吉澤 政敏) Tel 025-757-9529 表示者登録番号 008	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画(株)丸上 意匠 自社
株式会社上庵 代表者名 川内 俊秀 岩手県北上市北鬼柳 20-51-10 (担当者：川内 俊秀) Tel 0197-64-5666 表示者登録番号 009	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画(株)丸上 意匠 自社
有限会社 樹 代表者名 須藤 勲 秋田県横手市婦気大堤字婦気 7 番地 (担当者：須藤 勲) Tel 0182-32-2378 表示者登録番号 010	後染反物 (色無地)	50 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 三共織物(株) 染色 小林染工房又は(株)菱健 制作企画(株)丸上 意匠 自社
株式会社銀座もとじ 代表者名 泉二 弘明 東京都中央区銀座 4-8-12 コチワビル 3 階 (担当者：遣田恵美) Tel 03-5524-3222 表示者登録番号 011	白生地 後染反物 大島紬 結城紬 染織作家製品	145 反 7 反 15 反 15 反 5 反	蚕品種 ブラチナボーイ 繭生産 千葉県内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 芋田織物、江口機業(株) (有)坪井商店、南久ちり めん(株) 染色 紫野やまざき 先染製品は製織機業(5社)、 染織作家(7名)を表示

(注) 上記以外の純国産絹マーク使用許諾申請者については実務的手続きが済み次第、逐次許諾することとします。
なお、当協会では引き続き同マークの使用申請を受付中であり、第2回目の純国産絹マーク審査委員会は平成20年9月12日(金)に開催の予定です。

提携グループづくりの広報活動用パンフレットの紹介

財団法人全国蚕業技術員養成研修基金協会が、今回、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の養蚕農家、養蚕農家指導者等向けに作ったパンフレットを次のとおり紹介します。

純国産絹製品に向けた繭づくりを!!

目的

- 新たな対策は、養蚕農家や製糸業者がこれまで以上の繭代や生糸加工費が得られるような、**純国産絹製品づくり**の仕組みをつくろうとするものです。
- 安価な輸入生糸や絹糸を使った絹製品と競争して**純国産絹製品**を消費者に買ってもらうには、高品質で特長のある繭・生糸をつくり、更にはこの特長を活かした絹製品にしていく必要があります。
- この**純国産絹製品**については、生産履歴を消費者に示していくことが重要です。
- それには、原料となる繭を生産する養蚕農家から始まり、製糸、製織、絹製品の製造・卸・小売等に至る蚕糸絹業関係者が密接に連携して**純国産絹製品**を生産し販売する**蚕糸絹業提携グループ**をつくる必要があります。
- このため、**提携グループ**づくりとその活動を支援するとともに、**純国産絹製品**であることが一目で分かる**純国産絹マーク**を作り、そこに生産履歴を明記して消費者に宣伝・普及していきます。



内容

1 新たな蚕糸対策の推進のために財団法人大日本蚕糸会の中に**蚕糸・絹業提携支援センター**が設立されました。

2 **提携グループ**に対しては3年間助成金が交付されます。

- 助成を受けるには、**提携グループ**ごとに事業計画を作成し、平成22年度までに支援センターの承認を受ける必要があります。
- 事業計画は、養蚕農家への繭代保証を可能とする**純国産絹製品**の生産・販売計画等について、養蚕農家はもとより**提携グループ**関係者全員が合意していること(そのことを示す規約書又は契約書を作成します。)、また開始4年目以降も一定の繭代が保証できる事業収益が確保される事業内容でなければなりません。
- 助成金は**提携グループ**の必要に応じて、各種費用に使うことができます。
(例：繭代、商品開発費、宣伝費等)
- 支援センターは専門家や関係者の協力を得て、**提携グループ**に入る意向のある農家や絹業関係者に助言したり、参考になる情報を提供するなど、**提携グループ**づくりに向けてサポートします。
- このほかに、**提携グループ**を作るために必要な稚蚕の安定供給と養蚕用機械や機材の整備に対する助成もあります。支援センターにご相談下さい。

3 平成22年度までの間、**提携グループ**に移行するまで養蚕農家に対してはこれまでと同様の繭代の補てんを継続します。

- 平成22年度までの間、養蚕農家が**提携グループ**の一員として繭生産をするようになるまでは、繭代補てんの措置を継続します。
- 繭代補てんの単価と算定方法は従来と同様です。
- 養蚕農家の皆さんは、遅くとも平成23年産の繭生産を開始するまでに**提携グループ**の一員となることが必要です。

4 **純国産絹製品**であることを証明する**純国産絹マーク**は右のとおりです。



問い合わせ先

蚕糸・絹業提携支援センター(財団法人大日本蚕糸会内) ☎:03-3214-3500
農林水産省生産局生産流通振興課 ☎:03-3502-8111 内線4845
(財)全国蚕業技術員養成研修基金協会(JA全農特産販売課養蚕対策室)
☎:03-3296-8033

新たに開発された真空式小型煮繭機の概要

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
清水 重人

蚕糸科学研究所では、7月に「真空式小型煮繭機」を導入し設置しました。この煮繭機は、コンパクトで、原料繭や繰糸目的等が最近のように小ロット多用途の状況に対応しており、タッチパネルの採用により、繭の浮き・沈みがボタン一つで行える等新しい機能が盛り込まれていますのでその概要について報告します。

導入の背景と目的

国内蚕糸絹業の維持発展のため、蚕糸・絹業提携支援センターによる各種支援事業が行われています。国内繭生産量が減少し、その希少価値を活かすため、差別化した純国産製品の商品化が一つの大きな課題となっている中で、蚕品種や生糸繰製方法等において従来とは異なった特徴あるものづくりが求められています。そのため、生糸の繰製、加工工程においては、繭荷口の小口化に加え、ブランド繭等各種原料繭、生挽きや塩蔵保存等生糸繰製方法及びその加工方法等が多様化しており、それに対応できる煮繭機、繰糸機等の改良開発が求められています。

当所では、国産繭による純国産絹製品の商品化を研究テーマの一つとして取り組んでいます。その一つに太繊度低張力糸による商品化開発があります。この研究では、繰糸中の繭糸を攪拌し、交絡を与える繰糸法及び繰糸機を開発し、かさ高性と柔らかさをもつ糸による商品開発を目的としています。繰糸中の繭が浮いているか沈んでいるかの状態は、攪拌時の繭糸相互の絡みに大きな影響を与えます。そのため、繭の浮沈コントロールを自由かつ容易に行える煮繭機が必要で、その開発を煮繭機メーカーにお願いしてきました。

このような中で、有限会社ハラダから上記テーマに対応すべく新しい機能を盛り込んだ「真空式小型煮繭機」を開発したとの報告を受けました。

真空式煮繭機については、昭和50年に元長野県繊維工業試験場の小池良介氏が考案し、(有)ハラダが制作した実績があります。ただし、当時の真空式煮繭機は、減圧目的の煮繭容器内への加温はできず、温度制御パターンの設定が限定される構造となっていました。

今回開発した真空式小型煮繭機(図1)は、最新部品を取り入れることにより容器内の温度制御が可能になったということです。



図1 煮繭機の外観(正面)

煮繭における真空(減圧)処理の効果

煮繭工程は、①繭層に水を湿潤させる前処理区、②繭層セリシンを膨潤軟化する蒸煮区、③煮上がりの重さ等を調整する調整区の3区の工程に集約されます。減圧処理は、特に①の前処理区で威力を発揮します。通常、繭層に水を湿潤させるためには、高温の蒸気で繭腔内の空気を追い出した後吸水させたり、湯の温度差を利用して繭腔内に吸水させますが、減圧による低温沸騰を利用すると、低温湯中でも短時間で繭層への吸水湿潤がむらなく均一に行えるため、節点の向上と過熟防止等に効果があります。また、軽浸透で若煮の状態や重浸透で熟煮の状態の繭を簡単に浮繭にすることが可能になります。

真空式小型煮繭機の特徴

本煮繭機の導入後、煮繭を行い、機能・性能等について検証した結果を次に示します。

◎コンパクトなバッチ式

一つの煮繭容器で構成されているため、特に連続式煮繭機に比べると、煮繭処理能力は少なくなりますが、工程に必要な湯量が大幅に少なくて済むことから、省エネ型のコンパクトタイプと言えます。また、減圧処理効果により煮繭時間の短縮が可能になります。

◎パールジョイントと複合電磁弁(図2)

配管部品にドイツ製のパールジョイントを用いることにより、回転動作を伴うにも係わらず蒸気や水が漏れない構造となつて



図2 パールジョイントと複合電磁弁

います。また、水と蒸気の両方に対応したモーターバルブ式複合電磁弁との併用により、煮繭容器内の減圧、常圧、加圧の各状態において給蒸、給排水が可能となり、温度を含めた煮繭条件設定パターンの幅が拡大しています。

◎液晶タッチパネル（図3）

制御盤に10インチの液晶タッチパネルを採用したことにより、画面タッチによる煮繭パターンの選定、煮繭進行状況の画面表示等ユーザーインターフェースが向上しています。また、各工程の時間や温度設定がワンタッチで変更可能等柔軟性があり、素人でも容易に扱えるようになっています。その反面、目的に応じた画面の設計とその設定技術が、使い勝手の画面完成度の良否に影響すると思われま



図3 液晶タッチパネル

◎ガラス窓（図4）

容器の正面に、タテ18cm、ヨコ10cmの特殊ガラスを採用した窓が設けてあります。この窓から、繭に湯が浸透し、繭の色が白から水色に変わる様子や減圧から常圧に戻した瞬間に繭が吸水して沈む様子またその際に、繭が潰れたりそれがすぐに膨らむ様子等繭の変化を視認することができます。これまで観察できなかった、煮繭工程における繭の状態変化を見ることができ、試験研究の上にも役立ちます。



図4 ガラス窓から中の様子を見る

現在、連続式煮繭機との煮上がりや繰糸成績等の違いについて試験を行っていますが、今後は、本煮繭機による煮上がりの浮沈を自由にコントロールできるように、減圧を加えた煮繭条件と煮揚り繭の浮沈について組み合わせ試験を行う予定です。

百貨店における絹呉服の動向

～ 時代のニーズと変化への対応 ～

(株) 高島屋 MD 本部

呉服ディビジョン長 池田 喜政

今、百貨店は時代の転換点を迎えております。少子化、原油高、生活物価の値上がりなど消費環境もよくありません。こうした中で、昨年終盤から貴金属や絵画などの高額品、春ごろからは婦人服の売上も下落気味で百貨店全体が厳しい状況にあります。

きもの業界でも、大きな転換点を迎えています。一部の「インセンティブ販売」や「ローン販売（過量販売）」等に対する批判が大きくなり、従来の販売手法は通用しなくなってきました。平成18年度には、きもの大型小売店が2社倒産しました。この倒産は、きもの販売に大きな影を落とし、この2社で年間約700億円のきもの小売金額が消滅したといわれています。

商品のアイテムでも変化が見られます。例えば、結婚式のスタイルの変化もあり、最近では、仲人を立てる人も少なくなりました。都市部では100組のカップルの内5組程度しか仲人がいないそうです。こうした変化はフォーマル（黒留袖）の売上げ減少を招きました。

これからは、さまざまな環境やライフスタイルの変化といった時代のニーズにいかに対応していくことができるか。これが今後の課題です。

お客様が主役

百貨店においては、悪い側面ばかりではありません。ライフスタイルの変化や情報化は新たな市場を作り出しています。

きもの分野で見ると、「必要性で買うきもの」から「自分が楽しむためのきもの」に変化しています。消費者のカジュアル着として「小紋・紬」が順調に伸びているのも一つ事象でしょう。これに似た事例として宝石があります。ダイヤモンドやエメラルドといった高級宝飾もフォーマル的な立て爪指輪からカジュアル的なアクセサリー化への変化により、商品の種類が格段に増え市場の拡大につながったといわれています。

情報化では、雑誌やインターネットにより、商品の内容が広範囲かつ技術技法なども詳しく取上げられています。昨年は、きもの関連本の発行が70冊あったと聞いていますし実際、本屋さんの店頭に行くときとたくさんきもの本が並んでいます。今、お客様は雑誌やインターネットから本当に多くの情報を採っているのです。雑誌やインターネットからの情報はビジュアルです。当然コーディネートやスタイリングを施した姿を掲載しています。雑誌が「自分が楽

しむためのきもの」を新たなファッションとして取上げているのです。これは、婦人服のファッションで雑誌が流行づくりに大きく影響しているのと同様の傾向であると考えられます。こうなると個性のない商品やニーズに対応できていない商品は魅力がなくなると映ります。

こうした情報化は、きものにおける時代のニーズの変化をもたらします。お客様は、単に価格や似合うというだけでなく商品の品質、価値への信頼はもちろんのことですが、さらに制作の背景である伝統、技術、産地、素材、製作者など様々な要素が購入する際の重要な動機となります。またコーディネートやスタイリングは新たな商品と消費を生み出すのです。

呉服売り場のリニューアル

高島屋は、「お客様が主役」の視点に立ち、呉服売り場のリニューアルを進めています。2年前には東京店、昨年は新宿店で実施しました。例えば、新宿店では、売り場面積を拡大し、お客様のニーズに応えるためのスペースと機能を設置しました。一つは総桐和室『桐庵』^{とうあん}で、二つ目は『悉皆』^{しっかい}コーナーです。

「桐庵」では、「お茶」「お香」「着付け」などの簡単な教室や講習コースを楽しむことができます。

「悉皆」では、お客様のお手持ちのきものや帯なども含め、通常のメンテナンスのほか様々なご要望にお応えできるようにしています。

坪当たりの売上げが大事な百貨店の売り

場ですから効率面を考えると難しいことでしたが、お客様のニーズがある以上、それに応えていくことが大切であると判断しました。

純国産絹「誰が袖好み」の商品制作の取組

純国産繭からの絹製品への取組みは、平成15年頃から検討を始めました。これは、「生地の出産国はどこですか？」というお客様の問い合わせに始まります。

従来、消費者は「きもの」は純国産絹製品として認識しています。しかし、今、こうした消費者の声があることも時代の変化であると思います。

高島屋では、国産の繭から製糸、製織、加工に至るまでの一貫して出来ないかを考え、オリジナル振袖「誰が袖好み（たがそでごのみ）」の商品制作を京都市の老舗問屋（株）千總さんと共同して進め、特定地域（栃木県・JAなす南）の特定蚕期（春蚕期：春嶺×鐘月、晩秋蚕期：錦秋×鐘和）の繭を原料として高級生糸（当初須藤製糸、現在は松岡^株にて繰糸）を用いて一貫生産する体制を作り上げました。

そして、平成16年から純国産の一貫生産のきものとして販売を開始致しました。日本の絹マークは高島屋が取得しています。このマークときもの反端に「純国産」の各段階の生産地や生産者履歴を明示しています。

以来、現在まで、PB振袖「誰が袖好み」に加えオリジナル七五三祝い着など生産量は年々拡大しています。平成20年度は好調で、振袖250着の販売計画を立ててお

りますが、前年に比較して2倍ペースの受注で好調です。今後は、販売中の振袖、七五三に続き、訪問着、長襦袢などへの品目拡大を考えております。

ただ純国産というだけで、お客様は、きものを選ぶわけではありません。きものは高価であるうえ、人生の節目を飾る大切な衣装です。当然、のことながら「地色、柄、予算、似合うか」などお求めになるまでは様々の要素があります。しかし、「純国産」は、お客様の購買動機の一つになることは間違いないと思います。「純国産」はプラスになることはあっても決してマイナスになることはなく、今後こうしたお客様のニーズはますます高まるでしょう。

商品創りの方向性

時代のニーズに対応するキーワードとしては、環境、CO₂削減、原産国、日本の素材、和文化、心の時代などがあげられるでしょう。

きものは、価値の訴求であり、上質、美しさ、手作り、素材、物語性、創り手の顔などが考えられます。特に素材は今後大切になっていくと考えられます。

例えば一つの例ですが、「喜如嘉の芭蕉布」がこうしたキーワードに正に合致していると私は思います。

糸芭蕉を素材とした「芭蕉布」はその代表的なものです。素材である糸づくりに始まる物語は、3年にも及ぶ糸芭蕉の栽培という厳しい農作業にはじまり、天然染料による染色、織りなどの長い工程と伝統の技術技法を駆使し製品になります。とりわけ

素材である糸が大きな存在です。さらに創り手である平良敏子さんと沖縄の歴史。どれをとっても時代が求めているものなのです。

このように商品創りには、時代のニーズをしっかりと捉え対応していくことが求められており、消費者（お客様）の声（要望）を近くで聞くことができる立場にある小売店の役割が大切になってきています。これからは、一層お客様のニーズを掴んだ商品が求められていくでしょう。なかでも、純国産、上質な素材、真似のできない技術技法は大変重要な要件になります。

「新しいきもの（商品）創りは、お客様（時代）の変化に応える」ことなのです。また、お客様に内容がきちんと伝わらなければ、モノは売れません。

消費者のニーズに応える商品作りとともに商品の中身をしっかりと明らかにして伝える努力が大切です。

売り手と創り手の連携

きものは、繭・生糸から染織を経由し、小売店まで多くの関係者（業者）の協力を得ています。

ひとつの商品を創り出すには、この関係者が一致したコンセプトに基づき、「売り手と創り手の連携」が大切です。

高島屋には染織界の名匠により半世紀以上にわたって（昭和11年スタート）開催されている最高級きもの発表会「上品会^{じょうぼんかい}」があります。これは、染織の最高峰を目指すもので厳しい基準を設けて運営していま



講演する池田氏（長野県岡谷市 第61回製糸夏期大学）

す。この上品会は、伝統を守るのではなく「古きを翻して新しきを為す。」の趣旨に則り、毎年、新たな作品創りに同人各社と切磋琢磨して挑戦しております。こうした長年にわたる取組みについても単に珍しいものを作るのではなく、お客様のニーズをしっかりと掴んで作品制作に生かしているわけです。

また同様に、京都市の龍村美術織物さんと独創的なオリジナルの最高級帯の制作販売の連携をしています。袋帯1点100万円位の高額品ですが毎年300点以上販売しております。これは最高の品質を表現することと独創的なオリジナルであることと同時に創り手と売り手が互いに相応の努力を続けていることが、永くお客様の支持を

得ている結果の表れであります。

きものに、お客様が求めるのは、今後も上質な商品であるはずですが、特徴ある繭の開発などの糸や素材、純国産、独自の技術などは他社、他商品との競合の上で、大変有利な要件となっていきます。

魅力的な商品を創り出すには、売り手と創り手が連携して相応の努力をすることが大切です。リスクの問題などいろいろあると思いますが、共通の思いで制作された商品は、オリジナルであり、必ずお客様に受け入れられるものと確信しています。これからも時代の変化に対応し、お客様の声に応える商品創りをいくことが重要であると考えています。

最近のブラジル蚕糸情勢

ブラタク製糸会社
元取締役工場長、経営審議会員

丸山 栄

1 急向上したブラジル経済

最近の BRICS 諸国のブラジル、ロシア、インド、中国において、ブラジルも遅ればせながら急速に力をつけてきている。ご承知のように、もともと、ブラジルは自然資源や農産物が豊かであったので、世界的に原材料の値上がりが大効果を上げている。石油価格の高騰が、かえってブラジルに幸いでいる。代替燃料アルコールを造るサトウキビ生産は急上昇中である。

2 育ちにくいブラジル中小企業の蚕糸業

前記のようにブラジル経済の向上はあっても、蚕糸業のような繊維業は、これらの恩恵にあずからない面を持っている。1970～90年代にかけて、ブラジル製糸業者は、現地業者10社近くもあり、また日本からの進出製糸も6社あったが、ほとんど廃業していて、現在は2社のみとなっている。

ブラジルの労賃も非常に値上がりしているので、中小農業者や私ども蚕糸業者のように、人を雇用する業種の中小企業は、発

展しにくい環境や政策下にある。このような会社は、ブラジルで正式に会社を興しても労賃、税金や保険料などの支払いが非常に高いので、ハンディキャップをもっている。特に手間のかかる蚕糸業のような農産加工業は、広大な土地がある故に、その面では低コストでやりやすいのであるが、現実の経営は困難がともなってくる。実際に利益を上げているのは、大規模農業主や銀行、外資系のトヨタ・ホンダなどのような大企業などである。

3 ブラジル通貨レアル貨の対ドルレートの値上がり

目下レアルは値上がり中であり、現在の本年7月8日のレートは1.60 R \$ / US\$ を切り始めている。

かつて2001年から2005年迄は、輸出為替はドル高レアル安であり輸出を主体とする製糸会社の経営バランスは良かったが、ドル相場下落のため、これが最大原因となって、2006、2007年は大変苦況に至っている。さらに今年になってもレアル貨

は、益々強くなってきている。ブラジルの輸出生糸にとって望ましい為替レートは、2.00～2.30- R \$ / u s \$ 以上である。

4 ブラジル蚕糸生産の苦況原因

対外的には

- 1) 第一には、輸出為替でドル安レアル高。
- 2) 第二には、主な輸出先の日本における絹織物消費の減退。
- 3) 第三には、中国の繭・生糸・絹撚糸・絹布の大増産。

安価な中国の生糸・絹布に押されて、日本、ヨーロッパ及びその他国向けに価格的に良くならない生糸需要環境。

国内的には

- 4) インフレに見合った繭価値上げが困難。
- 5) ブラジル労働賃金の大幅アップ。
- 6) ブラジルへも中国絹布の輸入増加で、生糸内需拡大が困難。

5 ブラジル養蚕業の現況

これまで、支払い繭価においてドルベースでは、十分な繭値で買っていますが（最近では、3ドル台後半の繭値）、他に有利な仕事が増え始めたため、この1～2年で養蚕農家は急激に減り始めている。（ブラタク製糸においても、2000年当初約8,600戸の養蚕農家が最近では約5,700戸に減少している。）

養蚕をやっているのは、当初はサンパウロ州の主に日系人であったが、現在は、勤勉性のあるヨーロッパ移民が多いパラナ州

であり、全ブラジルの90%を占めている。地質が良いパラナ州での5～10アルケール（12～24ヘクタール）の平地でない馬耕による小農家であり、桑園面積に対する収繭量は、既存のサンパウロ州より2～3倍とかなり高い。ブラジルは、気候が温暖で中北部のような広大で有り余る土地はあっても、土地性と勤勉性に劣る地方は、遠方であることもあり養蚕農家は増えにくいのである。

1アルケール（2.4ヘクタール）桑園面積に対し、掃き立ては製糸会社による2令稚蚕を、1回飼育毎に約3箱（蚕約10万頭）配蚕する。毎年9月から翌6月にかけて、ブラタク製糸がかかえる養蚕農家は年間平均7.3回飼育している。他作物や家畜も兼業でもやれるように、小規模養蚕経営である。

ここ数年は「一種の農地解放運動」により、政府から5～10アルケールを提供された小農業者による養蚕農家を増やしている。桑園への給肥は金肥は高価であるため、鶏糞が最適であるが、ゴミでも何でも桑園へ入れるよう指導している。繭質向上のため、回転まぶしや石灰など消毒剤を製糸会社が用意して、安価に提供している。

稚蚕共同飼育、蚕品種改良、回転まぶしの普及などにより、収繭高は1箱33,000頭から50～60kgの生繭が取れている。土地性があるパラナ州産の繭品質は近年大変向上している。その重要な品質指標「解じょ率」においては、ブラジルは温度は高くても湿度は低いので、「回転まぶ

表 -1 ブラジルの生繭生産量

Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン) (Ton)	シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン) (Ton)
1989/90	15,829	2000/01	9,916 (117%)
1990/91	17,221	2001/02	10,238 (103%)
1991/92	17,586	2002/03	9,966 (97%)
1992/93	19,134	2003/04	8,005 (80%)
1993/94	18,260	2004/05	7,146 (89%)
1994/95	16,260	2005/06	8,051 (113%)
1995/96	15,368 (95%)	2006/07	8,617 (107%)
1996/97	14,811 (96%)	2007/08	6,266 (73%)
1997/98	14,594 (99%)	2008/09 (見込み) (Estimate)	5,703 (91%)
1998/99	10,305 (71%)		
1999/2000	8,473 (82%)		

資料：ブラジル製糸協会

注：() 内は対前年比

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

し」の普及及び繭質検査による格差買入などがあって、2000年に入って70%（日本繭検定にすれば75%位）を越すようになってきている。但し、ブラタク養蚕農家1戸当たり870kg/年の繭生産高であるため、養蚕業だけでは食べて行けない。逆に言えば、ブラジルの繭生産費用は世界一安いということである。（表-1 生繭生産量 参照）

6 ブラジルの製糸業

現在2008年のブラジル製糸協会（ABRASSEDA）所属は、サンパウロ州（SP）とパラナ州（PR）にFiação de Seda Brtac S.A.（ブラタク製糸3工場、自動繰糸機36セット、生産シェア約75%）とパラ

ナ州にFujimura Silk do Brasil S.A.（藤村製糸1工場、自動繰糸機13セット、生産シェア約25%）だけとなった。他に絹製織を主とした小規模製糸が2社（Beralgin、SP州、Feriz Casulo、PR州）あるが、ブラジル製糸協会には加入していない。

即ち日本ではほとんど廃業した器械製糸が、このブラジルで日系人による日本蚕糸技術によって、なんとか続けているわけである。その自動繰糸機の稼働率は、繭入荷量減少のため70～90%である。

そのブラジル蚕糸業を主導しているブラタク製糸は、製品輸出が90%も占めるため、前記の「ドル安レール高」とさらに、日本向け売り行き減少に悩まされているわ

けである。

かつて日本製糸が行ったように、原料繭代を保持するために、人員を減らし、生糸量歩合などの生産性を上げて行く必要がある。そして、徹底した節約合理化を行って、このレアール高を切り抜けて行かねばならない現状にある。

かつての日本蚕糸業へは、日本政府による保証援助があったが、ブラジルには、そのようなものはほとんどない。あっても輸出税免除だけであり、国内販売には流通税などの諸税が多くかかっている。さらに、蚕種の改良生産、2令稚蚕共同飼育、養蚕農家への養蚕器具・桑園肥料・消毒剤の無利子で長期返済販売などの費用がかかっている。従業員へは、本人の手取り給料額と同額位の健康保険料・退職積立金・ボーナ

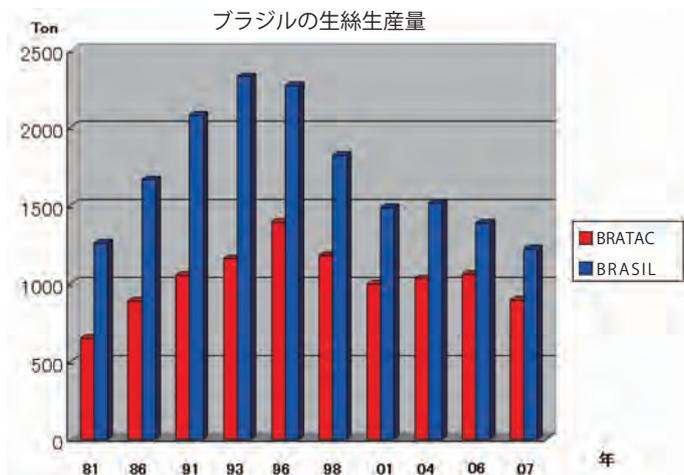
スなど多種の公的支払いが、会社企業に対し法的に決められている。

幸いにも、生糸品質面においては、ブラタクとフジムラは、蚕品種において、日本人蚕種技術者（ブラタクは昭栄製糸、フジムラはカネボー蚕種）によって開発されており暖国ブラジルに必要な強健性があり、糸歩は少ないが繭糸繊度は細い、解じょ性ある蚕品種が得られている。さらに工場管理が向上しているため、2社とも良質生糸や絹撚糸が生産できている。特にブラタク糸は、日本人一世の工場長の指導よろしきを得て、日本を第一として、ヨーロッパ・アジアにおいて、銘柄ブランド品として、買っただけではない。そして入荷率が多い中・下繭による糸販売も行って、生産性を上げているところである。（表-2 生

表-2 ブラジルの生糸生産量

Produção de Fio de Seda

ブラジルの生糸生産量 (単位:t)		
年度	ブラタク	ブラジル
1932	3	
1940	6	
1945	42	
1948	10	
1950	26	
1953	43	
1956	33	
1961	46	
1966	98	
1971	171	
1974	562	
1981	647	1258
1986	888	1664
1991	1054	2077
1993	1161	2326
1996	1393	2270
1998	1179	1821
2001	997	1485
2004	1032	1512
2006	1058	1387
2007	895	1220



糸生産量とそのグラフ 参照)

7 ブラジル蚕糸の販売状況

2007年の生糸・絹撚糸の販売については、1,150トンであった。日本向けは減っているが、ベトナム向けが急増している。2007年は前年に対し、ブラジルの平均輸出売値は、30 US\$/kg 台であり糸況悪化とレール高のため、国内通貨レールベースでは大きく値下がりしている。

今年になって、6月まではUS\$のドルベースで輸出価格値上げを、客先から多少させてもらっているが、余りにも強いレ

ール高のため、採算が追いつかない。かつては、糸値が下がっても、常にブラジル貨の切り下げが続いたので助かってきた。しかし、このレール高に対し、何が何でもこの苦況を切り抜けて、ブラジル蚕糸業は維持、発展するのが、高品質シルクを要望する世界のシルクユーザーのために重要と考えております。

(表-3 ブラジル生糸・絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況、表-4 ブラジル生糸・絹撚糸の製糸別輸出状況、表-5 ブラジル生糸・絹撚糸の仕向先別輸出状況 参照)

表-3 ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn, and Secondary Silk Yarn in Brazil

区分		2003年実績	2004年実績	2005年実績	2006年実績	2007年実績	2008年予測	08/07(%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,503)	106 (1,770)	118 (1,971)	72 (1,202)	84 (1,403)	89 (1,486)	106.0
	輸出 Export	1,057 (17,652)	837 (13,978)	676 (11,289)	782 (13,059)	876 (14,629)	847 (14,145)	96.7
	計 Total	1,147 (19,155)	943 (15,748)	794 (13,260)	854 (14,262)	960 (16,032)	936 (15,631)	97.5
絹撚糸 "Twisted Silk Yarn"	内需 Domestic Demand	77 (1,286)	71 (1,186)	92 (1,536)	74 (1,236)	78 (1,303)	88 (1,470)	112.8
	輸出 Export	431 (7,198)	516 (8,617)	454 (7,582)	392 (6,546)	274 (4,576)	276 (4,609)	100.7
	計 Total	508 (8,484)	587 (9,803)	546 (9,118)	466 (7,782)	352 (5,878)	364 (6,079)	103.4
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,789)	177 (2,956)	210 (3,507)	146 (2,438)	162 (2,705)	177 (2,956)	109.3
	輸出 Export	1,488 (24,850)	1,353 (22,595)	1,130 (18,871)	1,174 (19,606)	1,150 (19,205)	1,123 (18,754)	97.7
	計① Total ①	1,655 (27,639)	1,530 (25,551)	1,340 (22,378)	1,320 (22,044)	1,312 (21,910)	1,300 (21,710)	99.1
副蚕糸 Secondary Silk Yarn"	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	64	88.9
	輸出 Export	217	386	295	241	256	253	98.8
	計② Total ②	481	509	338	325	328	317	96.6
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	24.4	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。Source: ABRASSEDA Note: Bale value may not add up.

表-4 ブラジル生糸・絹撚糸の製糸別輸出状況

暦年	2006年			2007年			2008年予測		
	輸出数量	俵換算	割合	輸出数量	俵換算	割合	輸出数量	俵換算	割合
ブラタク	921,562	15,359	78.55	908,865	15,148	79.01	847,000	14,117	75.42
フジムラ	247,716	4,129	21.11	241,432	4,024	20.99	276,000	4,600	24.58
コカマーレ	4,006	67	0.34	-	-	-	-	-	-
合計	1,173,284	19,555	100.00	1,150,297	19,172	100.00	1,123,000	18,717	100.00

資料：ブラジル製糸協会

表-5 ブラジル生糸・絹撚糸の仕向先別輸出状況

暦年	2005年			2006年			2007年		
	輸出数量	俵換算	割合	輸出数量	俵換算	割合	輸出数量	俵換算	割合
日本	662,422	11,040	58.63	693,001	11,550	59.06	388,498	6,475	33.77
ベトナム	40,958	683	3.63	91,657	1,528	7.81	381,433	6,357	33.16
フランス	90,214	1,504	7.98	95,826	1,597	8.17	96,764	1,613	8.41
イタリア	50,613	844	4.48	60,597	1,010	5.16	93,903	1,565	8.17
インド	61,521	1,025	5.45	104,843	1,747	8.94	68,687	1,145	5.97
トルコ	29,302	488	2.59	29,427	490	2.51	54,530	909	4.74
韓国	101,843	1,697	9.01	45,300	755	3.86	33,923	565	2.95
スイス	39,068	651	3.46	20,280	338	1.73	17,862	298	1.55
チュニジア	6,058	101	0.54	3,642	61	0.31	8,466	141	0.74
中国	-	-	-	-	-	-	4,249	71	0.37
米国	9,395	157	0.83	590	10	0.05	1,377	23	0.12
イギリス	38,444	641	3.40	27,821	464	2.37	605	10	0.05
バラグアイ	-	-	-	300	5	0.03	-	-	-
合計	1,129,838	18,831	100.00	1,173,284	19,555	100.00	1,150,297	19,172	100.00

同上大陸地域別輸出状況									
地域別	2005年			2006年			2007年		
アジア	866,744	14,446	76.71	934,801	15,580	79.67	876,791	14,613	76.22
欧州	247,641	4,127	21.92	233,951	3,899	19.94	263,663	4,395	22.92
アメリカ	9,395	157	0.83	890	15	0.08	1,377	23	0.12
アフリカ	6,058	101	0.54	3,642	61	0.31	8,466	141	0.74
合計	1,129,838	18,831	100.00	1,173,284	19,555	100.00	1,150,297	19,172	100.00

資料：ブラジル製糸協会

国内産地情報

絹織物産地の概況（7月）

産地によっては商いが鈍く在庫の整理で生産調整が続く

<原糸>

中国交易市場は落ち着いた動きであった。ブラジル糸は7月契約分より値上げが始まり、中国糸は先高観はあるものの織物の荷動きが低調で、原料手当は補充買程度で閑散であった。

<白生地>

- ・丹後の生産は、前年対比86.7%の減産で、集散地の仕入れ手控えで動きは鈍い。精練加工費、原料価格の上昇で苦戦している。
- ・長浜の生産は、不需要期ではあるものの生産量は前年対比101.6の増産で生産には努力している。
- ・五泉は、主力の駒紹と精華、駒塩瀬と全体の生産が7月半ばの精練加工料の値上がりで駆け込み増産となっている。
- ・福島は、和装を中心にスカーフとともに販売不振で在庫は受注減のため増加傾向にある。
- ・福井は、広幅羽二重は受注生産、小幅は輸入品との価格競争でさらに苦戦。
- ・岐阜は、織物生産は見込み生産中心で対応され現状維持に努めているが状況は厳しい。
- ・群馬・埼玉は、催事不振により市況が悪いことから生産高は昨年実績を大幅に下回り不需要期前に生産調整をしている。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、産地問屋の地方売出しも不調に終わり、低調である。しかし、一部値ごろの振袖用機業数社がフル稼働している。染色代等のコストアップは避けられず採算を圧迫している。
- ・博多は、市況の悪さと不需要期のため一部を除き生産調整して対応している。
- ・十日町は、付下げが大幅な減少で全体の足を引っ張っている。振袖、訪問着に関しては安定している。
- ・米沢は、生産は呉服が産地問屋からの受注減で生産調整。服地はシーズン物の受注が大苦戦である。
- ・山梨は、服地は前月に引き続き順調。ネクタイは一部にはロットが小さく少量での荷動きはあるが全体としてはすこぶる少ない。服地は来春ものの生産が始まり順調な状況。
- ・西陣のネクタイは、秋冬ものの発注が待たれるが、まだ本格化していない。

* (社)日本生糸問屋協会月報 20.8.12 第711号による。

海外シルク情報

中国

最近（2008年1～4月）の中国シルク輸出概況

中国通関統計によれば、本年1～4月累計の中国シルク商品の輸出額は、10.99億ドルでありほぼ前年同となっている。

○品目別輸出状況

生糸、撚糸などの蚕糸原糸類の輸出は好調であり、同輸出数量は8,710トン（14万5千俵強）、同金額は2億4百万ドルとなり、対前年比それぞれ20%増、15%増となり、平均輸出単価は23.39ドル/kg（2,526円/kg）（対前年比4%減）となった。絹織物の輸出も順調であり、数量で7,729万m、金額で2.47億ドルとなり、対前年比それぞれ18.6%増、14.3%増であり、平均輸出単価は3.19ドル/m（対前年比3.6%減）となった。一方、シルク製品の輸出額は6.48億ドルで対前年比8.3%減少であり、これは同製品の約8割を占めているシルク服装類の同期間中の輸出数量4,296万着、同輸出金額5.01億ドルで対前年比それぞれ15.7%減、7.8%減と不振をかこっているためである。

○主要輸出市場別動向

主要輸出市場を多い順（金額ベース）に第1位から第8位まで掲げると、米国、香港、アラブ首長国連邦、イタリア、インド、日本、パキスタン、ドイツとなる。この中で好調なのはイタリア向け対前年比17.5%伸びており、逆に米国向けは対前年比14.3%減少しているのが最近の特徴となっている。

○主要輸出省・市（産地）別動向

以前と同様に5大主要輸出省・市（産地）は、浙江省、江蘇省、上海、広東省、四川省となる。この中で江蘇省と浙江省の輸出が対前年比それぞれ15.6%、14%増加しているものの、上海は前年を下回っているのが目立っている。

中国シルク代表団ブラジルを訪問

本年5月下旬、中国シルク協会会長を団長とし商務部シルク担当官、業界幹部及び生糸検査関係者一行8名がブラジルを訪問した。

受入側のブラジル製糸協会とは、両国のシルク生産・貿易状況を積極的に情報交換を行うとともに生糸品質と生糸の電子計測問題について協議を行い、その後、現地の製糸工場を視察している。今後、両国のシルク協会は密接に交流を強化することが両国のシルク産業の発

展に繋がること、ブラジル側としても中国の電子計測方法に積極的に協力することが合意された模様である。

主要産地の本年度春繭の生産量は減産

最近、中国の養蚕主産地の本年度春繭の生産動向が発表されているので紹介する。

1、広西自治区

地域的に亜熱帯気候の南方に位置することから、年間 10 回以上の蚕期をもつ中国最大の繭生産基地の 6 月 30 日までの繭生産状況は、年度当初から引き続く気象災害(大雪による凍害と大雨による洪水害)による桑樹の発育不良と蚕病の発生に加えて養蚕資材の高騰の影響を受け、使用桑園面積は、201.79 万ムー (= 134,500ha) と前年と同水準であったが、蚕種掃立量は 271.89 万枚、繭生産量 8.73 万トンとなり、それぞれ対前年比 10.08% 減 3.72% 減となり、ここ数年間急ピッチで進んできた同自治区の増産傾向に黒雲がかかりつつある。

2、江蘇省

春繭期の使用桑園面積は、131.82 万ムー (= 87900ha) で対前年比 7.3% 減となり、省内の春繭生産量は 5.41 万トンとなり、対前年比 3.8% 減産となった。繭質は気象条件に恵まれたこともあって良好の模様で春繭の農家からの買い上げ価格は 22.50 元/キロで対前年比 6.1% 増となっている。

3、浙江省

確たる繭生産量の発表はないが、省内各産地いずれも対前年比 1 割以上の減産となっている。特に、6 月初旬からの入梅以降、異常な高温多湿の上に広範囲にわたって強い降雨に見舞われ、嘉興などの省内北部の主要産地は日照不足による桑の病害虫被害が拡大しつつあり、数量での減少に加えて繭品質の劣化など夏蚕以降の重大な影響が懸念されている。

4、山東省

春蚕期においては、省内の西部及び中央部の主要産地にて壮蚕飼育期間中の低温気象に遭遇し、桑葉の成長不足から繭生産量は 17,030 トン(対前年比 5.4% 減)、収繭量は 15,900 トン(対前年比 6.5% 減)となり減産となった。繭品質は前年とほぼ同様とのことで農家からの買い上げ価格は、24.6 元/キロとなり、対前年比 1.5% 増加となっている。

5、四川省

5 月の汝川を震源地とする四川大地震の影響から蚕種掃立量は、75 万枚で対前年比 8.5% 減となり、春繭生産量は、26,500 トンで対前年比 10.2% の減少となっている。

* (社)日本生糸問屋協会月報 20.7.15 第 710 号及び 20.8.12 第 711 号による。

シルクの豆辞典 (17)

桑畑の出現

— 桑中の喜び —

信州大学

名誉教授 嶋崎 昭典

桑の木は、湿地帯でも乾燥地でもまた痩せた荒れ地でも育ち、南緯 30 度から北緯 50 度の広い地域に分布する環境に強い樹木です。カイコの餌はもともと桑の葉だけでしたから、そうした桑の面から蚕糸の様子を伺うことにします。

1. 共同桑林から四辺桑

垣根の桑

氏族社会の名残を持つ古代では*『詩経』の「ひんふう幽風」の詩に歌われていたように、家々で蚕飼いはしても、桑樹は氏族の共有財産のようでした(図1)。時代は過ぎ周が都を洛陽に移した紀元前 770 年ごろ、河南省の中部、新鄭県中心の詩といわれる、『詩経』ていふう鄭風に桑に関わる「しょうちゆうし将仲子」の歌があります(要約)。

御願いです仲子(次男、次郎)さん。私の家の垣根を越えないでください。私の植えた桑を折らないでください。私は決して桑を惜しんで言うのではないです。あなたが人目を忍んで訪ねてくれるのは嬉しいですが、兄たちに知られるの

がこわい。あなたも考えなければいけません。家の人たちに分かった時のことを。

恋人が夜訪ねてくるのを家人に知られたら、と心を悩ます娘さんの歌とされています(朱子)。これは紀元前 700 年代の中頃になると、河南省の農家では、家の周りの垣根に自家用の桑の木を植えて、隣り近所に気兼ねせずに蚕飼いする時代へ移りつつある事を伝えているといえます。

四川省の養蚕は近年まで年間 15 万トン



図1 銅器上の採桑図

を越える中国一の養蚕地帯でしたが、その桑は四辺桑といわれる家の垣根、田畑の畔、道路の端や川の土手といった空き地利用の桑づくりが主でした（図2）。

日本も、大宝元年（701）の大宝令では桑づくりを奨励していますが、それは中国の四辺桑と同じ空き地利用の桑づくりでした。昔から、「衣食住」と言っても養蚕は食糧生産に次ぐ副業の立場でした。



図2 空地利用の桑づくり（四辺桑）

2. 桑畑

養蚕が盛んになって、専用の桑畑の現れるのは何時ごろの事か、確かなことは分かりませんが、かなり早くからではないかと思われます。今の河南省北部汲県一帯の鄘（衛国）の詩といわれる『詩経』鄘風に「桑中」という名の歌があります（要約）。

沫の村で、ねなしかつらの若菜を摘む。
姜家の美しい姉むすめさん、誰を思い待
っておられるのですか。わたしと桑仲で
契るため。わたしを上宮で迎え、あの有
名な淇の川の畔までおくってくれました。

蚕飼いは女性の仕事で、家人の目の届きにくい桑摘みは開放感を与え、恋の機会をあたえました。「桑中」の詩が源となり、その後『桑中の喜び』（密会の意）の故事となり広く流布するようになります。桑中は地名との説（陳奂）もありますが、専用の桑畑ともかんがえられます。中国では西暦前八、七世紀になると、上流社会の華やかな生活の風潮に伴い各地に養蚕が盛んとなり桑畑が処どころに現れるようになったようです。

3. 仁徳天皇と磐之姫命

父の応神天皇は仁徳天皇の弟を可愛がり天皇の跡継ぎときめていました。だが弟は兄こそ天皇に相応しい人といって位を譲り合うのでした。弟は自殺して身を引くのですが、その今際のきわに、母を同じくする妹の八田皇女の行く末を案じ、「仁徳天皇の後宮の一人に入れて欲しい」と頼むのでした。しかし皇后の磐之姫命はがんとして聞き入れません。そこで、歌によるやり取りがはじまります（要約）『日本書紀』。

天皇。天皇の名に懸けて誓う言葉だ。控えの弓ずると同じだ、聞き入れてくれ。
皇后。着物なら重ね着もいいですが。夜の床を二つ並べようとは、なんと恐ろしいことを言われるのですか。

そこで天皇は皇后の『並び』を受けて

天皇。あの大阪湾の美しい並び浜のように。
八田皇女はただそれを頼りに、いまは生きていると思う。

皇后。夏蚕の繭のように。二頭が吐いた二

本の糸の絡み合った玉繭から、どうしてよい糸が繰り取れますか。

と、皇后はなんと言っても聞き入れません。そこで天皇は皇后が紀の国に出かけた留守に八田皇女を後宮に入れてしまいます。帰りの途中でそれを知った皇后は「いま私が見たいのは葛城高宮、わが故郷のあたり」と詩い奈良山を越え、故郷の葛城の里が見えるところまで来ますが、家に帰るわけにもいかず、今の京都府綴喜郡の、百濟から帰化し養蚕をしている、奴理能美の家へいかれます。天皇は仕方なく大勢の供をつれ船で迎えにいきます。その途中、桑の枝が水にただよい流れていくのを見て、

天皇。「皇后よ。もう大概に思い直してくれないか。あちこちとぶっつきながら流れていく桑の木よ。私も桑の木、寄る術の無い川の隅々をあっちに寄りこっちに寄りあなたの後を追いかけていく、ああ桑の木よ」

と歌われるのでした。

そして翌日、筒城（綴喜）宮に入られ、

天皇。山また山の山背^{やましろ}の女（皇后）のいろいろ言っ^て聞いてくれないので、見渡す限り一面に茂った桑のように（桑畑）、大勢の供を連れてむかえにきました。さあ、会いに来ておくれ。

皇后は結局会われず、それから数年後、筒城宮で亡くなられるのでした。

日本では神話から歴史の時代に入ったと言われる西暦 400 年ごろの仁徳天皇の時代、養蚕の盛んな所では桑園もつくられ、春夏 2 回の養蚕が行われていたこと、夏繭には玉繭が多いこと、生糸の繰糸がされ、玉繭からは、良い生糸の繰れない事、そうした蚕糸の指導は百濟からの奴理能美のような帰化人によって行われていた事が知られます。

* (注) 詩経とは五経の一つ。中国最古の詩集。孔子の編といわれている。殷（いん）の世から春秋時代までの詩 311 編（内 6 編は詩題のみ）を国風・雅・頌の 3 部門に大別。国風には周南・召南・北※（はい）・鄘（よう）・衛・王・鄭・齊・魏・唐・秦・陳・檜・曹・豳（ひん）があり、雅には大雅・小雅があり、頌には周頌・魯頌・商頌がある。

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
第44回特別展 「王朝雅の絹文化」 —華麗なる平安装束—	平安時代中期に成立した「源氏物語」は、今年1000年を迎えます。本展では、光源氏35歳の邸宅、六條院春の御殿(4分の1模型)に、源氏、夕霧、柏木などの登場人物を配し、晩春の六條院で行われた蹴鞠の風景や、柏木が女三の宮を垣間見る場面などを再現し、源氏物語に見る王朝貴族たちの生活や装束文化を紹介します。 観覧料：一般200円(160円)、大高生100円(80円) *()内は団体割引(20名以上)の料金、中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成20年8月30日(土)～10月13日(月・祝) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館、9月23日は開館、翌24日は休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp 協力 風俗博物館
桜岡民恵ニット作品展	華麗なるシルクニットの世界から作品の数々を紹介します。	平成20年9月8日(月)～12日(金) AM10:30～PM6:00 (最終日はPM5:00終了)	会場： ジャパンシルクセンター、東京都千代田区有楽町1-9-7蚕糸会館1階 お問合わせ (社)日本絹業協会 Tel&Fax:03-3215-1212
「ぐんまの絹」東京展	群馬県で生産された繭と生糸を使い、長い歴史と伝統に培われた染織技術と最新の加工手法を駆使して創り上げた、優れた織物、編物などの純ぐんまオリジナル絹製品を一堂に集めて展示します。	平成20年9月19日(金)～22日(月) AM10:30～PM6:30 (最終日はPM4:00終了)	会場：ぐんま総合情報センター2階展示ホール (東京都中央区銀座5-13-19デュープレックス銀座タワー) 主催：群馬県、「群馬の絹」活性化研究会 後援：(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹業協会、(財)群馬県蚕糸振興協会 お問合わせ 群馬県農政部蚕糸園芸課 Tel:027-226-3092
養蚕(カイコと桑と繭と)展示会	京都府はかつて全国でも有数の養蚕地帯であり、亀岡地域でも養蚕は、明治後期から昭和初期にかけて農業の副業として盛んに行われていました。当館では5年前より友の会々員の手でわずかですが養蚕を始め、飼育展示をしています。今回、蚕の飼育展示とともに各種の講演会と糸引きの実演を行います。 入館料：一般(高校生以上)260円、小中学生150円、小学生未満無料、30名以上の団体は1割引、身体障害者手帳・障害者手帳をお持ちの方は無料	平成20年9月20日(土)～10月19日(日) 会期中10月13日(祝・体育の日)・14日(火)と毎週月曜日は休館	会場・主催・お問合わせ 亀岡市文化資料館 (京都府亀岡市古世町中内坪1) Tel:0771-22-0599 Fax:0771-25-6128
「丹後きものまつり in 天橋立」	丹後のきものまつりを天橋立一帯で開催する。	平成20年10月26日(日)	会場 天橋立文殊地区一帯 主催 丹後織物工業組合 Tel:0772(68)6131

<p>かながわシルク フェア2008</p>	<p>神奈川県では、県内シルク産品を広く県内外に紹介し、その普及を図るため、シルクフェア(シルク製品の展示、機織り、組紐の体験、カラーコーディネート、スカーフの巻き方教室など)を開催します。 *体験は、土、日に実施、一部のもの有り。</p>	<p>平成20年11月1日(土)～9日(日) 10:00～18:00</p>	<p>会場 シルクセンター国際観光 会館地下1階イベントスペース 主催 かながわシルクフェア実行委員会 協賛 (社)日本絹業協会、 (社)日本生糸問屋協会 後援 (財)大日本蚕糸会、 (社)日本絹人織織物工業会 問合せ先 神奈川県Tel:045(210)5765 (社)神奈川県観光協会Tel: 045(681)0007 http://www.kanagawa-kankou.or.jp/silk-fair/part2/index.html</p>
<p>国練検査80周年記念 「第59回丹後織物 求評会」</p>	<p>「丹後ちりめん」をはじめとする丹後の織物総合展示会を京都にて開催する。</p>	<p>平成20年11月25日(火)～ 27日(木)</p>	<p>会場 京都市下京区の京都産業 会館 主催 丹後織物工業組合 Tel:0772(68)6131</p>



華麗なアート・シルクフラワー（日本の絹展より）

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧

平成20年8月11日現在

登録番号	氏名	所属・役職名
19-001	島田 俊弘	中央蚕糸協会顧問
19-002	西 文秀	(社)日本絹業協会専務理事
19-003	中尾 敏明	(社)日本生糸問屋協会専務理事
19-004	道鎮 孝雄	(社)日本絹業協会事業部長
19-005	寛 文平	全国農業協同組合連合会副審査役
19-006	清水 重人	(財)大日本蚕糸会蚕糸科学研究所上席研究員
19-007	田中 幸夫	(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
19-008	代田 丈志	(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
19-010	遠田 寿之	松岡株式会社監査役
19-011	渋谷 健治	松岡株式会社シルク事業部課長
19-012	佐藤 信行	松岡株式会社常務取締役
19-013	小坂橋 広行	碓氷製糸農業協同組合参事
19-014	今村 幸文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
19-015	萩原 和憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-016	宮坂 照彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
19-017	高橋 耕一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
19-018	服部 芳和	有限会社織道染塩野屋代表
19-019	木下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
19-021	門倉 重行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
19-022	川瀬 久弥	樋口株式会社工場長
19-023	福永 吉穂	江一株式会社原糸事業部長
20-001	笹口 晴美	有限会社ミラノリブ代表取締役
20-002	薦田 智昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-003	西澤 厚男	中央蚕糸協会専務理事
20-004	佐藤 幸香	「香染」工房主宰
20-005	土井 芳文	絹小沢株式会社業務推進役
20-006	石田 克己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-007	深田 祥二	株式会社深田商店専務取締役
20-008	兵頭 眞通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-009	草間 健一	株式会社草間商会代表取締役
20-010	前田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-011	星野 伸男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-012	昆野 和夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-013	阿部 未男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-014	俵 武司	株式会社千總副部長
20-015	原田 尹文	有限会社ハラダ代表取締役
20-016	西尾 仁志	有限会社西尾呉服店代表取締役
20-017	山根 敏男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-018	都木 裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
20-019	伊藤 公一	株式会社伊と幸代表取締役社長
20-020	北川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-021	本橋 伸夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-022	宮 忠光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-024	野中 康雄	株式会社伊と幸和装部次長
20-025	亀井 修一	株式会社伊と幸営業部

登録番号	氏名	所属・役職名
20-026	宮 沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-027	東 宣 江	群馬県蚕糸館主宰
20-028	松 澤 清 典	松澤製糸所
20-029	渡 邊 英 夫	ネオシルク株式会社足利支店営業部長
20-030	金 井 史 郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
20-031	中 谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-032	北 丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
20-033	松 本 信 孝	有限会社ハック代表取締役
20-035	片 山 政 明	山形県養蚕産地推進員
20-037	角 谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
20-038	原 田 晶 三	アンファンテリブル代表
20-039	福 田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-040	清 水 武 彦	有限会社シンセイ（信州繭ブランド織物振興会会長）
20-041	梅 田 幸 平	有限会社幸和代表取締役
20-042	大 嶋 啓 子	株式会社 AWA - S 取締役
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ 21 研究会代表
20-045	境 京 子	多摩シルクライフ 21 研究会
20-046	藤 井 浩 一	藤井絞株式会社取締役部長
20-047	松 井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-048	大 野 章	勝山織物株式会社
20-049	勝 山 健 史	勝山織物株式会社専務取締役
20-050	福 地 圭 一	丸八生糸株式会社
20-051	舞 鶴 一 雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
20-052	旭 利 彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-053	内 藤 吉 雄	元艶金興業株式会社 F P 事業部（織物自販部）
20-054	前 田 勝 臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-055	堀 内 新 也	農業、地域（繭）マイスター
20-056	林 太 一	昭和撚糸工業株式会社
20-057	中 野 豊	長崎絹業研究所製作担当
20-058	永 岩 則 子	長崎絹業研究所所長
20-059	宇 野 浩 嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
20-060	中 尾 浩 祥	株式会社丸万中尾取締役
20-061	小 口 和 興	株式会社帛撰代表取締役
20-062	吉 川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-063	大 竹 史 朗	有限会社大竹商店代表取締役
20-064	加 藤 洋 次	株式会社加藤技術士事務所所長
20-065	田 中 裕 司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
20-066	黒 田 秀 樹	株式会社伊と幸和装部次長
20-067	秋 山 眞 和	綾の手紬染織工房主宰
20-068	山 口 治 之	丹波生糸株式会社代表取締役
20-069	藤 井 美登利	川越むかし工房代表
20-070	藪 内 猛 之	株式会社ヤブうち代表取締役
20-071	竹 下 和 利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-072	中 島 洋 一	玉川大学講師

（注） 標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

蚕糸関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫”(ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
絹の資料館	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
川島織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
ガンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 ガンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246-2	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富村郷土資料館	400-1513	山梨県東八代郡豊富村大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
丸子町郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	0427-61-7118
穂高町天蚕センター	399-8301	長野県南安曇郡穂高町大字有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館 (小千谷市総合産業会館内)	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	07619-8-2859
手おりの里金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784
城川町天蚕センター	797-1703	愛媛県西予市城川町窪野 2579-2	0894-83-0640

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	33
(2) 養蚕業の概要	34
(3) 養蚕農家数の推移	35
(4) 収繭量の推移	36
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量(2007)	37
(6) 蚕品種別蚕種製造数量(2007)	38
(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況	39
(8) 生糸生産数量の推移	40
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	41
(10) 生糸相場	42
(11) 絹需給の推移(生糸量換算試算)	43
(12) 製糸工場の原料繭需給	44
(13) 器械製糸工場の操業状況	45
(14) 生糸在庫数量の内訳	46
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	47
(16) 絹糸原産国別輸入状況	48
(17) 織物の生産状況	49
(18) 絹人織織物製造業者の絹織物生産状況	50
(19) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	51
(20) 全国全世帯消費支出	52

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	53
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	54
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	55
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	56
(5) 中国のシルク類(生糸、絹糸、絹織物)の輸出状況	57
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	58
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	59

—資料・国内—

(1) 蚕糸絹業の概要
Outline of Sericultural, Silk-Reeling,
and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,482
前年対比(%) 2007/06	86.9	85.7	98.9	90.0	100.0	100.0	96.2	93.4

資料 ・ 養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。

・ 絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)

The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)

The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項目 Item 年次 Year	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk- worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mul- berry per farm household raising silk-worm	Box of silk-worm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
対前年比 2007/06 (%)	86.9	88.9	85.7	87.2	103.6	85.7	102.0	100.0	98.9

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～).

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
対前年比 2007/06 (%)		86.9	86.6	85.2	89.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～).

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

項目 Item 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	kg/10a
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
対前年比 2007/06 (%)	85.7	83.7	90.2	85.5	98.9	96.5	106.3	95.5	102.8
構成比 (%)	100.0	40.4	25.4	34.2					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.
National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～）.

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量 (2007年)

Farm households rising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2007

項目 Item Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕 農家数	桑使用 面積	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量	養蚕 農家数	収繭量
	Farm households rising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households rising silk-worm	Cocoon production	Farm households rising silk-worm	Cocoon production	Farm households rising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	34	32	11.8	24	2.9	34	4.5	34	4.3
宮城 Miyagi	41	42	12.7	28	4.5	27	4.1	32	4.2
山形 Yamagata	19	26	7.6	13	3.1	13	1.6	17	2.8
福島 Fukushima	114	179	56.6	98	19.5	85	16.4	100	20.7
茨城 Ibaragi	43	45	17.9	41	7.6	34	4.6	36	5.6
栃木 Tochigi	53	100	40.2	52	15.6	34	8.1	49	16.5
群馬 Gunma	471	515	185.6	439	78.0	275	46.9	429	60.7
埼玉 Saitama	114	92	38.0	109	15.5	81	9.7	97	12.8
千葉 Chiba	19	9	4.2	18	1.8	8	1.1	12	1.2
神奈川 Kanagawa	14	..	3.0	11	1.1	10	0.6	14	1.2
山梨 Yamanashi	43	28	13.3	36	6.4	15	2.4	33	4.5
長野 Nagano	54	34	15.9	48	6.3	42	4.4	39	5.3
岐阜 Gifu	38	15	5.3	30	2.6	14	0.8	25	2.0
徳島 Tokushima	31	12	6.0	29	2.9	17	1.3	21	1.8
愛媛 Ehime	22	20	8.1	22	3.0	18	2.6	18	2.5
熊本 Kumamoto	15	7	2.1	14	1.4	9	0.4	8	0.3
その他 Others	44	16	1.9	40	2.8	10	0.5	24	1.7
全国計 Total	1,169	1,172	433.2	1,052	175.0	726	110.0	988	148.1

資料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2007年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2006年夏秋蚕用 for summer & autumn reeling		2007春蚕用 for spring reeling		2007夏秋蚕用 for summer & autumn reeling		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	3,280	40.3	1,770	22.1	2,400	40.1	7,450	33.6
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号	2,900	35.6			2,600	43.5	5,500	24.8
春 嶺 × 鐘 月			1,200	15.0			1,200	5.4
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,600	32.4			2,600	11.7
ぐ ん ま × 2 0 0	1,395	17.1	1,832	22.8	480	8.0	3,707	16.7
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.2	500	8.4	600	2.7
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	86	1.1	67	0.8			153	0.7
芙 蓉 × つくば・ね	100	1.2					100	0.5
鐘 光 × 黄 玉								
ぐ ん ま 黄 金	16	0.2	38	0.5			54	0.2
新 青 白			38	0.5			38	0.2
新 小 石 丸	283	3.5	222	2.8			505	2.3
小 石 丸	3	0.0	18	0.2			21	0.1
かいりょう × あけぼの								
改良しんあけぼの								
蚕 太			22	0.3			22	0.1
上 州 絹 星	77	0.9	118	1.5			195	0.9
合 計 Total	8,140	36.8	8,025	36.2	5,980	27.0	22,145	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2007 - 4	155	851	—	1,219	8,480	1,317	34	933	633
5	138	872	—	1,249	8,241	1,667	21	1,024	574
6	147	1,241	—	1,558	8,071	1,711	38	969	626
7	146	861	—	1,129	7,949	1,872	12	962	555
8	136	1,277	—	1,169	8,193	1,774	31	975	567
9	151	1,262	—	1,569	8,037	1,935	55	987	563
10	153	1,438	—	1,397	8,231	2,222	57	1,011	604
11	150	1,357	—	1,320	8,418	1,989	42	1,121	586
12	146	885	—	1,369	8,080	1,667	21	1,125	721
2008 - 1	130	918	—	1,249	7,879	2,021	8	1,295	416
2	135	787	—	1,487	7,314	1,769	18	770	670
3	153	1,459	—	1,415	7,511	1,689	33	865	685
4	160	505	—	3,444	4,732	2,220	45	1,107	644
5	155	3,574	—	3,180	5,281	2,067	73	1,068	577
2008.1~5	733	7,243	—	10,775	5,281	9,766	177	5,105	2,992
2007.1~5	718	4,280	—	6,113	8,241	6,270	149	4,205	2,961

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for law silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸生産数量の推移

Production of Raw Silk

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生糸及び玉糸 Raw Silk and Doupion Silk				
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸 Domestic Raw Silk Reelers	及び &	器械玉糸 Machine Reeling Mills
暦年 Calendar Year					
2002	6,521	5,617		904	..
2003	4,791	4,000		791	..
2004	4,387	3,634		753	..
2005	2,508	1,735		773	..
2006	1,956	1,417		539	..
2007	1,747	1,227		520	..
生糸年度 Silk Year					
2002	5,953	5,128		825	..
2003	4,517	3,735		782	..
2004	3,868	3,110		758	..
2005	2,024	1,329		695	..
2006	1,794	1,285		509	..
2007	1,762	1,231		531	..
2007 - 4	155	113		42	..
5	138	97		41	..
6	147	104		43	..
7	146	101		45	..
8	136	94		42	..
9	151	108		43	..
10	153	105		48	..
11	150	103		47	..
12	146	102		44	..
2008 - 1	130	91		39	..
2	135	91		44	..
3	153	105		48	..
4	160	115		45	..
5	155	112		43	..
2008.1~5	733	514		219	..
2007.1~5	718	510		208	..

資料：農林水産省生産局調査。

備考：1. 生糸年度は6月から翌年5月までである。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：1. Silk year ranges from June to May of the following year.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18Denier以下 or finer 17/19	21Denier 20/22	27Denier 26/28	31Denier 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2002		6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003		4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004		4,387	2	471	2,389	948	581
2005		2,508	8	337	834	799	527
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
生糸年度 Silk Year							
2002		5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003		4,517	7	334	2,689	955	530
2004		3,868	4	482	1,845	918	622
2005		2,024	6	261	510	726	518
2006		1,794	4	269	480	562	475
2007		1,762	5	276	443	495	537
2007 —	4	155	—	21	51	44	39
	5	138	—	21	31	43	43
	6	147	—	11	43	43	49
	7	146	—	39	36	36	34
	8	136	—	26	41	45	23
	9	151	—	14	54	39	45
	10	153	—	14	55	60	24
	11	150	—	29	36	36	48
	12	146	1	13	38	42	52
2008 —	1	130	—	14	26	40	50
	2	135	4	31	10	33	57
	3	153	—	29	29	47	46
	4	160	—	35	35	36	53
	5	155	—	21	40	38	56
2008. 1~5		733	4	130	140	194	262
2007. 1~5		718	—	113	192	213	199

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 生糸相場

Raw Silk Quotations

1 東京穀物商品取引所(生糸先物取引) The Tokyo Grain Exchange(Raw Silk Futures Trading)

(1) 商況 State of Market

6月: 月初2日は、見送り気分強くバイカイで始まり、9月限から11月限が月中の最高値段3,400円、6月限が月中の最低値段3,321円記録した。下旬に25日の当月限納会は前日と同値の3,321円とで納まり、受渡数量は無しとなった。翌26日の新甫12月限は同鞘の3,400円で発会して今月を終わった。

7月: 月初1日は、見送られてバイカイで始まり、9月限から12月限が月中の最高値段3,400円、8月限が月中の最低値段3,299円を記録した。その後もバイカイに終始した。28日の当月限納会は前日と同値の3,390円で納まり、受渡枚数は無しとなった。29日の新甫1月限は同鞘の3,400円で発会して今月を終わった。

(2) 先物約定値段 Monthly Prices of Futures Contracts Traded (Unit:JPY/kg)

	限月	始値	高値(日)	安値(日)	終値
6月中	6月限	3,321	3,321 (2)	3,321 (2)	3,321
	7月限	3,390	3,390 (2)	3,390 (2)	3,390
	8月限	3,299	3,299 (2)	3,299 (2)	3,299
	9月限	3,400	3,400 (2)	3,400 (2)	3,400
	10月限	3,400	3,400 (2)	3,400 (2)	3,400
	11月限	3,400	3,400 (2)	3,400 (2)	3,400
	12月限	3,400	3,400 (22)	3,400 (22)	3,400
7月中	7月限	3,390	3,390 (1)	3,390 (1)	3,390
	8月限	3,299	3,299 (1)	3,299 (1)	3,299
	9月限	3,400	3,400 (1)	3,400 (1)	3,400
	10月限	3,400	3,400 (1)	3,400 (1)	3,400
	11月限	3,400	3,400 (1)	3,400 (1)	3,400
	12月限	3,400	3,400 (1)	3,400 (1)	3,400
	1月限	3,400	3,400 (29)	3,400 (29)	3,400

(3) 出来高合計及び一日平均出来高 Total Trading Volume and Daily Average Volume

単位:枚

	出来高合計	一日平均	
6月中	251	12	6月中
7月中	263	12	7月中

(4) 受渡高 Delivery

単位:枚

	早受渡	期日受渡	計
6月中	0	0	0
7月中	0	0	0

2 現物標準値の推移 Standard Price of Raw Silk

単位:円/kg Unit:JPY/Kg

区分	東京市場 Tokyo Exchange Market		
	最高 High	最低 Low	平均 Average
平成20年1月	3,080	3,070	3,072
平成20年2月	3,080	3,050	3,077
平成20年3月	3,200	3,080	3,094
平成20年4月	3,250	3,220	3,223
平成20年5月	3,320	3,260	3,266
平成20年6月	3,380	3,320	3,326
平成20年7月	3,390	3,300	3,382

資料: (社)日本生糸問屋協会発表 Source:Japan Raw Silk Dealer' Association

(11) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
対前年比 2007/06 (%)	87.7	91.7	100.0	86.3	65.0	59.4	87.5	93.6	86.4	95.5	—	100.0	90.0	200.0	85.5	92.2

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)
After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭 t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total			う ち 器 械 製 糸 工 場 Machine Reeling Mills		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year							
2002		1,559	2,150	775	1,366	1,822	708
2003		1,598	1,612	761	1,302	1,330	679
2004		1,291	1,500	553	1,039	1,228	489
2005		866	830	589	540	552	478
2006		600	646	541	405	445	436
2007		548	581	505	345	390	391
生糸年度 Silk Year							
2002		1,921	1,972	525	1,764	1,674	480
2003		1,477	1,554	448	1,162	1,273	368
2004		1,056	1,280	224	794	1,008	154
2005		839	673	390	531	419	266
2006		562	599	349	405	410	260
2007		502	583	266	344	388	215
2007 —	4	0	50	351	0	35	295
	5	46	48	349	-2	33	260
	6	16	50	316	11	34	238
	7	131	49	398	130	32	335
	8	110	44	464	61	29	368
	9	35	50	448	33	34	366
	10	135	50	533	120	32	454
	11	3	50	486	3	33	424
	12	68	48	505	-1	32	391
2008 —	1	-1	43	461	-1	29	361
	2	-2	44	416	-2	28	332
	3	-8	52	356	-9	34	288
	4	14	51	319	0	35	253
	5	1	52	266	-1	36	215
	2008.1~5	4	242	266	-13	162	215
	2007.1~5	50	240	349	-12	164	260

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion silk producers.

In addition, reelers of raw silk for domestic use and doupion silk producers reported in dry cocoon weight, which was converted into fresh by dividing by 42%.

3. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(13) 器械製糸工場の操業状況
Activities of Machine Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数 Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2002		7	607	414	68	290	207
2003		6	444	285	64	290	173
2004		5	426	262	62	292	165
2005		2	203	126	62	269	83
2006		2	114	94	82	266	59
2007		2	112	93	83	266	57
2007 —	2	2	112	93	83	21	60
	3	2	112	94	84	23	60
	4	2	112	93	83	23	56
	5	2	112	94	84	22	55
	6	2	112	92	82	23	55
	7	2	112	89	79	23	55
	8	2	112	92	82	21	55
	9	2	112	89	79	22	56
	10	2	112	92	82	24	60
	11	2	112	96	86	22	58
	12	2	112	94	84	22	57
2008 —	1	2	112	95	85	20	58
	2	2	112	94	84	22	57
	3	2	112	96	86	22	58
	4	2	112	100	89	23	60
	5	2	112	100	89	22	60

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(14) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2007 — 4	8,480	8,480	524	20	7,733	203	851	851	—
5	8,241	8,241	473	20	7,564	184	872	872	—
6	8,071	8,071	472	20	7,453	126	1,241	1,241	—
7	7,949	7,949	451	15	7,240	243	861	861	—
8	8,193	8,193	436	30	7,382	345	1,277	1,277	—
9	8,037	8,037	415	10	7,243	369	1,262	1,262	—
10	8,231	8,231	383	15	7,501	332	1,438	1,438	—
11	8,418	8,418	366	15	7,724	313	1,357	1,357	—
12	8,080	8,080	359	20	7,358	343	885	885	—
2008 — 1	7,879	7,879	350	15	7,193	321	918	918	—
2	7,314	7,314	327	10	6,607	370	787	787	—
3	7,511	7,511	321	15	6,774	401	1,459	1,459	—
4	4,732	4,732	310	15	3,664	743			
5	5,281	5,281	305	15	4,241	720			

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and dupion reelers.

(15) 蚕糸関係品目別輸入状況(平成15年～20年5月)
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2003～May 2008)

	単位 Unit	平成20年(2008)		平成19年	平成18年	平成17年	平成16年	平成15年	19年/18年
		(5月) May	(累計) Accumulated Total	(2007)	(2006)	(2005)	(2004)	(2003)	2007/06 (%)
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	3,574	7,453	12,857.9	21,147.8	22,915.1	25,418.8	31,379.9	60.8
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	2,067	9,766	19,439.2	31,524.4	32,699.5	29,744.5	33,043.6	61.7
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	38.2	215.5	333.4	429.9	520.0	933.6	1,109.1	77.6
繭 Cocoon	kg	0	0	13,750	18,565	16,300	203,604	258,285	74.1
真綿 Floss Silk	kg	1,671	16,162	28,660	34,176	45,186	25,320	55,969	83.9
ペニ Peigne	kg	0	90	6,336	19,760	15,068	14,952	7,308	32.1
くず繭 Waste Cocoon	kg	464	5,839	17,184	1,020	3,650	6,797	3,540	1,684.7
絹ノイル Silk Noil	kg	12,300	81,990	242,082	234,894	216,422	293,373	231,277	103.1
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	34,841	103,028	238,507	255,951	319,072	267,341	346,689	93.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	49,276	207,109	532,769	545,801	878,398	607,783	584,783	97.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	57,107	244,891	608,270	756,065	847,200	781,454	832,514	80.5
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	7,469	54,310	117,265	208,913	202,901	244,557	260,508	56.1
絹織物 Silk Fabrics	m ²	978,640	4,692,988	10,381,266	11,859,929	14,782,915	10,823,074	10,373,703	87.5

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 絹糸の原産国別輸入数量

Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2005		32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
生糸年度 Silk Year									
2005		36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2007 —	2	997	—	634	245	2	—	116	—
	3	936	—	512	167	—	1	256	—
	4	1,317	21	783	398	1	—	116	—
	5	1,667	—	1,119	267	0	—	280	—
	6	1,711	—	1,134	409	4	—	164	—
	7	1,872	—	1,153	487	1	—	231	—
	8	1,774	—	1,154	466	1	—	154	0
	9	1,935	—	1,239	520	—	—	176	—
	10	2,222	—	1,224	638	1	—	358	—
	11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
	12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008 —	1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
	2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
	3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
	4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
	5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
2008.1~5		9,766	7	5,293	2,886	6	—	1,568	6
2007.1~5		6,270	21	3,756	1,286	3	1	1,200	3

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 織物生産数量
Fabric Production

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters.)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維 織物 Synthetic Fiber Fabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose sta- ple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
曆 年 Calendar Year										
	2002	2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
	2003	2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
	2004	1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
	2005	1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
	2006	1,739,863	399,776	17,125	1,381	1,085,577	64,475	95,921	71,007	4,600
	2007	1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
	2007 — 2	142,640	32,550	1,238	96	89,908	5,223	8,030	5,356	240
	3	146,310	32,627	1,251	96	92,850	5,408	8,091	5,476	510
	4	143,211	31,386	1,241	95	91,268	5,240	7,960	5,640	382
	5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
	2008 — 1	133,497	26,858	992	103	89,170	5,072	6,129	4,844	330
	2	140,032	28,237	1,193	97	92,787	5,473	7,220	4,799	225
	3	142,113	28,482	1,160	99	94,979	5,522	6,804	4,861	207
	4	140,452	28,121	1,093	96	93,616	5,555	6,518	5,100	351
	5	130,825	27,538	1,097	98	84,908	5,252	6,585	5,099	249
	2008. 1~5	686,919	139,236	5,535	493	455,460	26,874	33,256	24,703	1,362
	2007. 1~5	709,554	160,207	5,963	482	449,667	26,185	37,830	27,539	1,681

資 料 : 経済産業省調査。

備 考 : 交織を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Mixed fabrics included.

(18) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics								
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics	
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn		
年 月 Year & Month	暦 年 Calendar Year									
	2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
	2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
	2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
	2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
	2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
	2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2007 —	2	1,312	427	193	123	111	679	422	256	206
	3	1,329	449	200	133	115	658	394	264	222
	4	1,317	443	198	125	120	664	409	256	210
	5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
	6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
	7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
	8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
	9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
	10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
	11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
	12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 —	1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
	2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
	3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
	4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
	5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
	2008.1~5	5,927	2,075	923	611	541	2,943	1,792	1,151	909
	2007.1~5	6,341	2,179	971	621	587	3,133	1,847	1,286	1,029

資 料：経済産業省調査。

備 考：単位以下四捨五入。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産高

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
年 月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2007 — 2	1,312	80.0	65,785	72.5	8,987	64.5	108,331	173.5
3	1,329	78.0	58,873	64.9	9,660	68.0	80,785	150.1
4	1,317	79.2	62,535	70.1	8,840	63.1	84,654	142.4
5	1,225	79.6	50,444	66.2	7,760	56.3	71,255	139.4
6	1,354	82.4	69,024	77.2	7,169	70.0	84,513	180.8
7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6			65,862	95.4	9,352	130.5		
2008.1~5	6,027	95.0	283,325	100.9	15,189	93.1	370,564	84.6
2007.1~5	6,341		280,818		16,317	62.3	438,016	

資 料：「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(20)全国全世帯消費支出(円)

Consumption Expenditures of Total Households

区分	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円)	前年 比(%)	(円)	前年 比(%)	(円)	前年比 (%)	(円)	前年比 (%)	(円)	前年比 (%)	(円)	前年 比(%)
2003年	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004年	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005年	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006年	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007年	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2007年5月	293,231	0.4	13,359	▲ 0.6	160	▲ 75.1	4,558	▲ 0.1	3,206	6.5	1,226	0.8
6月	280,587	0.1	13,730	4.8	407	88.7	4,656	7.4	3,493	5.3	1,355	▲ 2.0
7月	291,632	▲ 0.1	13,234	▲ 3.0	391	▲ 14.7	4,692	▲ 0.5	3,341	▲ 6.7	1,231	▲ 9.8
8月	296,035	1.6	9,965	0.7	516	109.3	3,166	▲ 10.0	2,284	▲ 5.8	1,021	▲ 2.4
9月	281,448	3.2	9,858	▲ 4.0	199	▲ 31.0	3,579	▲ 4.0	2,125	▲ 7.0	986	3.0
10月	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11月	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12月	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008年1月	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2月	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3月	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4月	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5月	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7

資料:総務省「家計調査報告」。2人以上で構成させる8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

世界主要国の家蚕繭生産高

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2001年	2002年	2003年
		トン	トン	トン
日本	Japan	1,031	880	780
中国	China	512,708	545,497	480,774
インド	India	140,000	128,000	117,000
ベトナム	Vietnam	22,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,916	10,238	9,966
タイ	Thailand	3,473	3,473	10,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	5,000	3,500	3,200
インドネシア	Indonesia	749	691	
トルコ	Turyey	47	100	169
ブルガリア	Bulgaria	52	50	0.3
ギリシャ	Greece	40	60	60
フィリピン	Philippines	17	28	23
主要国の計	Total	715,033	733,517	663,472

区 分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turyey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
主要国の計	Total	730,910	809,722	934,902

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

世界主要国の家蚕生糸生産高

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2001年		2002年		2003年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	431	7,200	391	6,500	287	4,800
中国	China	62,560	1,042,700	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100
インド	India	15,842	264,000	14,617	243,600	13,970	232,800
ベトナム	Vietnam	2,000	33,300	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,484	24,700	1,607	26,800	1,563	26,100
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,500	2,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	770	12,800	630	10,500	500	8,300
インドネシア	Indonesia	110	1,800	91	1,500		
トルコ	Turyey	7	100	17	300	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	7	100	0	0
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	3	100	3	100
主要国の計	Total	85,816	1,430,100	95,802	1,596,700	104,968	1,727,100

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600		
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turyey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
主要国の計	Total	101,935	1,699,100	109,848	1,830,800	115,602	1,926,900

注1 日本は農林水産省特産振興課、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数
 Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production,
 and Number of Filatures in China

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha, %)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	3,913	5,602	143	196	175	89
上 海	Shanghai	0.03	-	-	408	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	100,539	117,800	117	18,580	20,186	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	74,838	85,122	114	20,530	19,051	93
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	33,900	37,596	111	3,890	4,038	104
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	10,577	12,110	114	1,650	1,676	102
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	36,845	39,700	108	6,800	6,253	92
河 南	Henan	2.20	2.73	124	8,600	13,390	156	300	318	106
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	13,583	15,706	116	650	536	83
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	3,663	4,100	112	45	50	111
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	34,300	68,750	200	1,100	1,138	103
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	148,460	185,000	125	6,600	8,020	122
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	31,000	23,828	77	6,500	6,490	100
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,500	77,800	100	17,510	21,914	125
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,199	1,254	105	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	20,095	31,477	157	1,550	1,335	86
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	20,272	18,498	91	1,775	1,657	93
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	537	613	114	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	413	475	115	30	59	197
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	819	895	109	55	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	-	208	-
合 計	Total	76.20	85.57	112	621,461	739,715	119	87,761	93,105	106

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2005	2006	前年比 2006/05
702	710	101

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1995年～2006年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	前年比 06/05(%)
北 京	Beijing													
天 津	TianJin													
河 北	Hebei	0.1	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				
山 西	Shanxi	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	150.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai	0.3									0.0	0.0		
江 蘇	Jiangsu	18.6	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	116.8
浙 江	Zhejiang	12.2	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	113.3
安 徽	Anhui	4.0	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	111.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	1.6	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	109.1
山 東	Shandong	5.0	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	108.1
河 南	Henan	1.8	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	144.4
湖 北	Hubei	2.2	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	114.3
湖 南	Hunan	0.3	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	3.3	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	202.9
広 西	Guangxi	2.1	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	125.0
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing				2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	77.4
四 川	Sichuan	20.3	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	100.0
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	100.0
雲 南	Yunnan	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	155.0
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.8	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	90.0
甘 肅	Gansu										0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia										0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
合 計	Total	76.0	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	118.8

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2007年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2007年実績	07/06 (%)	2007年実績	07/06 (%)
1 インド	India	8,761,294	257.50	207,499	219.07
2 イタリア	Italy	984,361	85.90	26,280	76.46
3 韓国	South Korea	904,656	143.26	24,108	122.35
4 日本	Japan	776,997	123.68	21,534	96.31
5 ルーマニア	Romania	489,511	—	12,194	—
6 ベトナム	Vietnam	482,640	155.90	11,992	115.11
7 パキスタン	Pakistan	262,751	141.70	6,231	122.95
8 バングラデッシュ	Bangladesh	232,782	342.63	5,454	297.22
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	227,815	546.76	5,523	459.87
10 タイ	Thailand	77,551	396.86	2,064	373.24
11 その他	Others	552,798	197.73	14,239	174.45
合計	Total	13,753,156	204.91	337,118	169.93

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2008年1月～6月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07 (%)	2008年実績	08/07 (%)
1 インド	India	4,295,750	104.32	100,120	102.39
2 ルーマニア	Romania	556,460	311.18	14,174	316.50
3 イタリア	Italy	474,969	86.09	13,013	88.07
4 日本	Japan	447,303	141.78	12,753	143.53
5 ベトナム	Vietnam	422,253	189.87	11,001	200.58
6 韓国	South Korea	394,355	90.96	10,228	87.13
7 バングラデッシュ	Bangladesh	87,961	94.50	2,034	93.03
8 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	90,467	80.63	2,022	71.49
9 パキスタン	Pakistan	82,072	116.46	1,943	109.74
10 タイ	Thailand	53,124	118.87	1,340	107.26
11 その他	Others	329,185	129.72	8,474	126.29
合計	Total	7,233,899	113.14	177,102	112.17

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2007年実績	07/06 (%)	2007年実績	07/06 (%)
1 イタリア	Italy	689,599	80.35	20,953	75.19
2 ドイツ	Germany	502,424	109.64	17,232	105.11
3 インド	India	477,188	109.61	12,711	89.75
4 日本	Japan	446,723	58.08	13,973	48.77
5 パキスタン	Pakistan	370,953	114.06	10,268	101.93
6 タイ	Thailand	121,009	91.61	3,557	83.28
7 韓国	South Korea	116,707	200.41	3,745	194.04
8 トルコ	Turkey	42,935	133.41	1,729	143.72
9 インドネシア	Indonesia	35,227	136.63	0,904	110.78
10 ブラジル	Brasil	28,062	—	0,863	—
11 その他	Others	147,452	151.91	5,025	147.71
合計	Total	2,978,279	93.32	90,960	83.62

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07 (%)	2008年実績	08/07 (%)
1 イタリア	Italy	535,169	181.63	16,695	179.81
2 日本	Japan	337,866	188.68	10,331	174.74
3 ドイツ	India	217,468	93.39	7,495	90.74
4 インド	Germany	246,074	223.29	6,540	204.74
5 パキスタン	Pakistan	177,245	99.11	4,852	95.43
6 タイ	Thailand	132,011	349.24	3,794	307.68
7 トルコ	Turkey	34,552	178.18	1,247	174.02
8 韓国	South Korea	16,941	32.26	0,604	34.72
9 香港	Hong Kong	17,805	566.32	0,541	565.15
10 シンガポール	Singapore	17,554	215.68	0,455	192.40
11 その他	Others	57,339	27.17	2,038	67.48
合計	Total	1,790,024	148.47	54,592	140.78

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics (>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2007年実績	07/06 (%)	2007年実績	07/06 (%)
1 インド	India	73,950,336	136.02	172,531	124.92
2 イタリア	Italy	30,886,756	110.71	105,778	105.53
3 香港	Hong Kong	26,520,128	115.26	114,749	118.97
4 パキスタン	Pakistan	20,306,364	75.91	41,563	77.57
5 韓国	South Korea	19,590,513	85.01	73,636	86.47
6 日本	Japan	12,961,633	88.53	33,084	83.48
7 アメリカ	United States	8,833,028	89.97	51,711	93.50
8 シンガポール	Singapore	7,608,011	53.18	15,869	38.34
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	5,370,503	104.27	16,772	99.96
10 フランス	France	4,562,695	103.47	17,175	109.10
11 その他	Others	24,301,715	88.31	86,515	90.14
合計	Total	234,891,682	101.72	729,383	98.79

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics (>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07 (%)	2008年実績	08/07 (%)
1 インド	India	24,484,641	79.94	71,198	145.66
2 イタリア	Italy	22,005,178	169.48	55,730	78.08
3 香港	Hong Kong	12,504,397	109.77	53,989	106.35
4 韓国	South Korea	9,781,450	99.58	37,862	103.63
5 パキスタン	Pakistan	7,601,323	125.62	16,456	141.27
6 日本	Japan	7,150,018	130.26	18,457	130.95
7 アメリカ	United States	4,332,408	110.87	24,175	102.45
8 マレーシア	Malaysia	3,847,735	224.51	13,065	234.92
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	3,382,135	175.99	11,349	181.78
10 フランス	France	3,115,074	156.05	12,211	153.17
11 その他	Others	15,350,774	112.72	51,389	121.17
合計	Total	113,555,133	114.10	365,881	114.67

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1985/86	11,353
1986/87	10,575
1987/88	11,830
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08 (見込み) (Estimate)	7,007 (81%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985	1,553,776	25,896
1986	1,663,976	27,733
1987	1,658,375	27,640
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562	20,326
2008 (見込み) (Estimate)	1,223,305 (100%)	20,388

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2008年1月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of January 2007.

ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn, and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：トン、()内は60kg俵

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年実績	2004年実績	2005年実績	2006年実績	2007年実績	07/06 (%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,503)	106 (1,770)	118 (1,971)	72 (1,202)	84 (1,403)	116.7
	輸出 Export	1,057 (17,652)	837 (13,978)	676 (11,289)	782 (13,059)	876 (14,629)	112.0
	計 Total	1,147 (19,155)	943 (15,748)	794 (13,260)	854 (14,262)	960 (16,032)	112.4
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,286)	71 (1,186)	92 (1,536)	74 (1,236)	78 (1,303)	105.4
	輸出 Export	431 (7,198)	516 (8,617)	454 (7,582)	392 (6,546)	274 (4,576)	69.9
	計 Total	508 (8,484)	587 (9,803)	546 (9,118)	466 (7,782)	352 (5,878)	75.5
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,789)	177 (2,956)	210 (3,507)	146 (2,438)	162 (2,705)	111.0
	輸出 Export	1,488 (24,850)	1,353 (22,595)	1,130 (18,871)	1,174 (19,606)	1,150 (19,205)	98.0
	計① Total①	1,655 (27,639)	1,530 (25,551)	1,340 (22,378)	1,320 (22,044)	1,312 (21,910)	99.4
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	85.7
	輸出 Export	217	386	295	241	256	106.2
	計② Total②	481	509	338	325	328	100.9
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2008年9月号 NO. 2 平成20年9月1日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社